

小売業

1. 評価対象企業（22社）

【百貨店】（4社）

J.フロントリテイリング、三越伊勢丹ホールディングス、高島屋、丸井グループ

【総合小売・コンビニエンスストア】（3社）

セブン&アイ・ホールディングス、パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、イオン

【ネット通販】（3社）

アスクル、MonotaRO、ZOZO

【専門店】（12社）

エービーシー・マート、マツキヨココカラ&カンパニー、ウエルシアホールディングス、ツルハホールディングス、良品計画、スギホールディングス、しまむら、ケーズホールディングス、ヤマダホールディングス、ニトリホールディングス、ファーストリテイリング、サンドラッグ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	29
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	19
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	14
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	8
計		16	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは36名（所属先26社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、ESG関連および自主的な情報開示を中心に項目数や内容および配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は69.0点（昨年度70.9点）、総合評価点の標準偏差は10.6点（昨年度10.2点）であった。昨年度に比べ、22社中14社の総合評価点が下がった。
- ② 業態別の総合評価平均点は、高得点順に、百貨店（4社）：78.1点（昨年度79.5点）、総合小売・コンビニ

エンスストア（3社）：75.3点（昨年度74.1点）、ネット通販（3社）：70.1点（昨年度72.9点）、専門店（12社）：64.1点（昨年度66.5点）となった。総合小売・コンビニエンスストアが3社共に上昇したが、その中でも、イオン（+5.3点）が大きく改善した。なお、各企業の総合評価点の差は依然として大きいと、下位評価企業においては改善努力を強く求めたい。

- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が69%（昨年度73%）、**説明会等**が78%（昨年度同率）、**フェア・ディスクロージャー**が83%（昨年度82%）、**ESG関連**が62%（昨年度65%）、**自主的情報開示**が50%（昨年度48%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、平均得点率80%以上の評価項目は5項目となり、そのうち85%以上は次の4項目（**説明会等**の中の2項目（(a)(b)）および**フェア・ディスクロージャー**の中の2項目（(c)(d)））であった。
- (a) 「月次の売上状況は、十分に開示されていますか」（平均得点率89%〔昨年度85%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：10%未満1社・80%台2社・90%台17社・100%2社）
- (b) 「各四半期決算（本決算・中間決算を含む）発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか」（平均得点率85%〔昨年度87%〕）（得点率：50%台1社・60%台1社・70%台3社・80%台6社・90%台11社）
- (c) 「経営陣がメディアを含む総合的な情報開示や取材対応等につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか」（平均得点率91%〔昨年度89%〕）（得点率：70%台1社・80%台3社・90%台18社）
- (d) 「リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていますか」（平均得点率88%〔昨年度90%〕）（得点率：20%台1社・80%台2社・90%台18社・100%1社）
- ⑤ 一方、平均得点率が50%台以下の評価項目は、次の2項目（**ESG関連**の中の1項目（a）、**自主的情報開示**の項目（b））となった。なお、(b)の平均得点率は、昨年度に比べやや改善したものの、全16項目の中で、最も低い水準であった。
- (a) 「中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・リターン）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」（平均得点率59%〔昨年度同率〕）（得点率：20%台1社・30%台2社・40%台1社・50%台6社・60%台7社・70%台4社・80%台1社）
- (b) 「決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していますか」（平均得点率50%〔昨年度48%〕）（得点率：20%台5社・30%台4社・40%台1社・50%台5社・60%台1社・70%台5社・80%台1社）
- ⑥ **ESG関連**の4項目は、次のとおりとなり、いずれの項目も企業間の得点率の差が大きい状況が見られる。なお、(a)～(c)は、本年度において項目内容を見直した。
- (a) 「ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていますか。また、企業価値関連性への言及は十分ですか」（平均得点率68%〔昨年度同率〕）（得点率：30%台1社・50%台3社・60%台8社・70%台6社・80%台4社）
- (b) 「ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていますか。また、企業価値関連性への言及は十分ですか」（平均得点率62%〔昨年度68%〕）（得点率：20%台1社・40%台1社・50%台10社・60%台3社・70%台4社・80%台3社）
- (c) 「人的資本に関する課題、サプライチェーンの環境・人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。その進捗状況や経営戦略との関係性、企業価値関連性を適切に説明していますか」（平均得点率62%〔昨年度67%〕）（得点率：30%台1社・40%台2社・50%台8社・60%台4社・70%台4社・80%台3社）
- (d) 「中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・リターン）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」（平均得点率59%〔昨年度同率〕）（得点率：20%台1社・30%台2社・40%台1社・50%台6社・60%台7社・70%台4社・80%台1社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 三越伊勢丹ホールディングス（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、

総合評価点 84.4 点〔昨年度比+3.9 点〕、昨年度第4位〕

- ① 同社は、説明会等が第1位（得点率〈以下省略〉88%）、経営陣の IR 姿勢等（86%）、ESG 関連（78%）が第2位、自主的情報開示が第3位（76%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（94%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く4分野において得点率が改善し、総合順位において初の第1位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、経営トップが IR に注力しており、IR における経営戦略や施策の狙いがありやすいためとの声や、投資家の声を経営に反映しているとの声が寄せられた。また、半年毎の社長スモールミーティングを評価する声もあった。「IR 部門の機能」および「IR の基本スタンス」は共に第2位となった。これらに関連して、IR 部門の情報集積、対話の質・量が優れているとの声や、アナリスト・投資家のニーズ・意見を把握し、IR 活動に活かしているとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2項目計）が共に最も高い評価となった。「決算情報開示」も同得点第3位となり、トップと僅差であった。これらの結果、この分野において第1位（昨年度同得点第7位）となった。これらに関連して、説明が明瞭でわかりやすいためとの声や、質問の意図を理解した回答が得られるとの声が寄せられた。なお、第1・第3四半期の情報開示の一層の充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「外国人投資家向け情報提供」が満点となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」（2項目計）が同得点第2位に、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第4位となり、いずれもトップとは僅差であった。
- ⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」が、昨年度に比べ得点率を大きく改善し、最も高い評価となった。「ESG に関する取組み」（3項目計）は第7位となった。これらに関連して、経営戦略、中長期ビジョン、財務政策の開示が優れているとの声があったほか、中長期目標 KPI などを適宜アップデートし、考え方の詳細などを説明していることを評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」は第3位となった。充実していたイベントとして、複数の事業戦略説明会を挙げる声が多かった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 アスクル（総合評価点 83.3 点〔昨年度比-1.5 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第1位（87%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（95%）、説明会等が第2位（86%）、自主的情報開示が第5位（71%）、ESG 関連が第6位（75%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」および「IR の基本スタンス」が共に最も高い評価となった。これらに関連して、投資家との対話を重視する IR スタンスは評価できるとの声があった。「経営陣の IR 姿勢」（第2位）も 90%以上の得点率となった。これに関連して、経営陣は IR 活動に熱心であり、市場参加者の声に耳を傾けようとする姿勢があるとの声が寄せられた。これらの結果、この分野において、昨年度に続き第1位となった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2項目計）が、トップと僅差の同得点第2位となった。これに関連して、決算説明資料等を通じた定量情報の開示は、質・量共に十分に参考になるとの声が寄せられた。また、「説明会、インタビューにおける開示」が同得点第2位になり、「決算情報開示」も、トップと僅差の同得点第3位となった。これらに関連して、質疑応答の時間を十分にとっているとの声や、決算説明後に経営トップが投資家との直接対話を積極的に実施している点を評価する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「外国人投資家向け情報提供」が満点となり、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第1位となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」（2項目計）も同得点第2位となり、トップとは僅差であった。

- ⑤ ESG 関連においては、「ESG に関する取組み」（3 項目計）が第 3 位となった。「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」は第 6 位であった。
- ⑥ 自主的情報開示の「決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」は第 5 位となった。充実していたイベントとして、ASKUL 東京 DC の施設見学会を挙げる声が多く、ロジスティクスでの優位性が当社の競争力の源泉であるため、このようなイベントを今後も望むとの声があった。

第 3 位 J. フロント リテイリング（総合評価点 81.0 点〔昨年度比－1.0 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（79%）、ESG 関連（77%）が第 3 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 3 位（94%）、説明会等（84%）、自主的情報開示（73%）が第 4 位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 3 位となった。これに関連して、主要子会社を含め、社長以下経営陣で半期毎の投資家ミーティングに臨むなど、市場の声を聴こうとする積極的な IR 姿勢があるとの声が寄せられた。また、「IR の基本スタンス」が第 4 位に、「IR 部門の機能」が同得点第 9 位となった。
- ③ 説明会等においては、「決算情報開示」が同得点第 1 位となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」が第 5 位となった。「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2 項目計）は同得点第 9 位となった。これらに関連して、四半期決算の遡及修正がわかりにくいとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「外国人投資家向け情報提供」が満点となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」（2 項目計）が同得点第 2 位に、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 4 位となり、いずれもトップとは僅差であった。
- ⑤ ESG 関連においては、「ESG に関する取組み」（3 項目計）および「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」が共に第 4 位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」は第 4 位（昨年度同得点第 6 位）となり、昨年度に比べ得点率が改善した。IR イベントとして、事業戦略説明会を挙げる声が多かった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (小売業)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目3 (配点29点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4 (配点19点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目4 (配点14点)		4. ESGに関連する情報の開示 評価項目4 (配点30点)		5. 各業種の状態に即した自主的な情報開示 評価項目1 (配点8点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	3099 三越伊勢丹ホールディングス	84.4	24.9	2	16.7	1	13.2	3	23.5	2	6.1	3	4
2	2678 アスクル	83.3	25.3	1	16.4	2	13.3	1	22.6	6	5.7	5	2
3	3086 J. フロントリテイリング	81.0	22.9	3	15.9	4	13.2	3	23.2	3	5.8	4	3
4	8252 丸井グループ	80.1	21.7	8	15.4	7	13.2	3	24.2	1	5.6	6	1
5	3382 セブン&アイ・ホールディングス	79.5	22.5	6	15.7	6	12.3	10	22.8	5	6.2	2	6
6	9983 ファーストリテイリング	78.9	22.7	4	15.1	11	13.0	6	23.0	4	5.1	7	5
7	7532 バン・パシフィック・インターナショナルホールディングス	74.7	22.6	5	15.4	7	12.4	9	20.1	8	4.2	12	9
8	7453 良品計画	74.4	20.4	10	14.8	14	13.3	1	19.5	9	6.4	1	10
9	8227 しまむら	72.0	21.8	7	16.1	3	11.8	12	17.8	12	4.5	9	8
10	8267 イオン	71.5	19.4	13	14.3	16	12.9	7	20.6	7	4.3	11	16
11	3391 ツルハホールディングス	68.7	20.2	12	15.4	7	11.5	13	18.5	10	3.1	14	11
12	8282 ケーズホールディングス	67.7	20.8	9	15.8	5	11.4	15	17.2	15	2.5	15	12
13	3092 ZOZO	67.4	20.3	11	12.6	20	12.8	8	17.1	16	4.6	8	13
14	3141 ウエルシアホールディングス	67.0	19.2	17	15.4	7	11.5	13	16.5	17	4.4	10	15
15	8233 高島屋	66.8	19.4	13	14.3	16	12.0	11	17.4	13	3.7	13	18
16	3088 マツキヨココカラ&カンパニー	64.1	18.3	18	13.8	18	11.0	17	18.5	10	2.5	15	20
17	9989 サンドラッグ	63.9	19.4	13	14.5	15	10.5	19	17.3	14	2.2	21	17
18	7649 スギホールディングス	63.8	19.3	16	14.9	13	10.8	18	16.5	17	2.3	18	14
19	3064 MonotaRO	59.6	17.3	19	15.0	12	11.2	16	13.7	21	2.4	17	19
20	9831 ヤマダホールディングス	55.6	16.0	20	12.0	21	9.8	20	15.5	19	2.3	18	21
21	9843 ニトリホールディングス	48.9	12.4	22	11.5	22	7.7	21	15.0	20	2.3	18	22
22	2670 エービーシー・マート	44.5	13.8	21	13.0	19	7.5	22	8.0	22	2.2	21	23
	評価対象企業評価平均点	69.00	20.03		14.73		11.65		18.57		4.02		

2024年度評価項目および配点（小売業）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（29点）	配点	委員のみ
(1)経営陣のIR姿勢		
・経営トップがIR活動に理解を示し、注力していますか。また、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	9	
(2)IR部門の機能		
・IR部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、IR部門が経営陣の代弁者として有益なディスカッションができますか。	9	
(3)IRの基本スタンス		
・当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中長期ビジョン・事業リスクを含め、アナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、適切なレベルの情報開示を維持または改善していますか。	11	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（19点）	配点	委員のみ
(1)説明会、インタビューにおける開示		
・決算説明会等における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	6	
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示（以下①②については、持株会社の場合、主要事業会社についての記載を評価する）		
①実績および次期事業計画について、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が開示されていますか。また、セグメント分類をはじめ会計方針等の変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていますか。	8	
②月次の売上状況は、十分に開示されていますか。	2	
(3)決算情報開示		
・各四半期決算（本決算・中間決算を含む）発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか。	3	
3. フェア・ディスクロージャー（14点）	配点	委員のみ
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
・経営陣がメディアを含む総合的な情報開示や取材対応等につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	3	
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供		
①決算説明会等の内容（質疑応答を含む）を迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか。	5	
②リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていますか。	2	
(3)外国人投資家向け情報提供		
・英文による情報提供は充実していますか。（0～4点の整数で評価）	4	●
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点	委員のみ
(1)ESGに関する取組み		
①ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていますか。また、企業価値関連性への言及は十分ですか。	6	
②ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていますか。また、企業価値関連性への言及は十分ですか。	6	
③人的資本に関する課題、サプライチェーンの環境・人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。その進捗状況や経営戦略との関係性、企業価値関連性を適切に説明していますか。	6	
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示		
・中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・リターン）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	12	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	配点	委員のみ
・決算説明会、ESG説明会以外のIRイベント等を積極的に実施し、かつその内容が充実していますか。【過去1年間を目安に評価】【充実していたIRイベント等名をコメント欄に記入して下さい】	8	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

小売業専門部会委員

部会長	小場 啓司	モルガン・スタンレー MUFG 証券
部会長代理	高橋 俊雄	みずほ証券
	風早 隆弘	UBS 証券
	金森 都	SMBC 日興証券
	仲西 恭子	アセットマネジメント One
	西村 俊一	三井住友 DS アセットマネジメント
	村田 大郎	JP モルガン証券

評価実施アナリスト（36名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	高橋 俊雄	みずほ証券
飯塚 恭平	第一生命保険	高柳 満	シティグループ証券
五十崎 義将	東京海上アセットマネジメント	ダグラス 奈津子	マコーリーキャピタル証券会社
伊藤 彰洋	三井住友 DS アセットマネジメント	田村 真一	極東証券経済研究所
井上 昂洋	シティグループ証券	津田 和徳	大和証券
江上 誠	三井住友トラスト・アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
大場 剛平	野村アセットマネジメント	永田 和子	QUICK
風早 隆弘	UBS 証券	仲西 恭子	アセットマネジメント One
金森 都	SMBC 日興証券	納 博司	いちよし経済研究所
金森 淳一	岡三証券	仁井田 将	りそなアセットマネジメント
川原 潤	大和証券	西村 俊一	三井住友 DS アセットマネジメント
菊間 太郎	SOMPO アセットマネジメント	花井 美穂	SOMPO アセットマネジメント
岸本 晃知	みずほ証券	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
高 英詞	野村アセットマネジメント	堀井 章	ニッセイアセットマネジメント
小場 啓司	モルガン・スタンレー MUFG 証券	松尾 賢弥	SMBC 日興証券
重岡 絵美里	大和証券	村田 大郎	JP モルガン証券
篠崎 真紀	モルガン・スタンレー MUFG 証券	山岡 久紘	野村証券
高田 訓弘	三菱 UFJ アセットマネジメント	横山 雄一	三菱 UFJ 信託銀行

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。